

千葉市美術館企画展「宮島達男 クロニクル 1995—2020」を開催します
～世界で活躍する現代美術作家の首都圏12年ぶりの大規模個展～

千葉市美術館では、企画展「宮島達男 クロニクル 1995—2020」を以下のとおり開催しますので、お知らせします。

本展は、国内外で活躍する現代美術作家・宮島達男を紹介する首都圏では12年ぶりとなる大規模な個展です。

開催にあたりまして、9月18日（金）15：00から記者の皆さまへの説明会を実施しますので、ぜひ取材にお越しください。

- 1 会期 令和2年9月19日（土）～12月13日（日）
※休室日 10月19日（月）、11月16日（月）
※休館日 毎月第一月曜日（10月5日（月）、11月2日（月）、12月7日（月））

- 2 会場 千葉市美術館（中央区中央3-10-8）

- 3 主催 千葉市美術館

4 ポイント ◆国内外で活躍する現代美術作家・宮島達男の12年ぶりの大規模個展

宮島達男は、LED（発光ダイオード）のデジタル・カウンターを使用した作品で高く評価され、世界で活躍する現代美術作家です。首都圏の美術館では12年ぶりの開催となる本展では、千葉市美術館の開館記念展である「Tranquillity—静謐」（1996年）に出品された《地の天》をはじめ、2020年の最新作や日本初公開の作品も含む約40点を展示します。

◆デジタル・カウンターがあらわす「生」と「死」

作品のモチーフであるデジタル数字は命の煌きをあらわし、0が表示されず1から9の変化を永遠に繰り返すことで、人間にとって普遍的な問題である「生」と「死」の循環を見るものに想像させます。

◆美術館でしか体験できない作品も

自分の死ぬ年月日を想像して入力する《Deathclock》や、CGによる数字が空間を飛び回り、鑑賞者の体に映し出される《Floating Time》など、美術館でしか体験できない作品に参加することができます。

◆千葉市美術館の所蔵作品や建築ともコラボ

千葉市美術館が所蔵する杉本博司、李禹煥、河原温ら現代美術の作品と宮島達男が本展のためにコラボレーションした《Changin Time / Changing Art》を発表。また1階にあるさや堂ホール空間を利用した作品も展示されます。

- 5 観覧料 一般 1,200円(960円)、大学生 700円(560円)
※ 小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料。
※ ()内は前売券、市内在住65歳以上の方の料金。
※ 前売券は、ローソン(ローソンチケット)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて9月18日まで販売(9月19日以降は当日券販売)。
※ ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18時以降は観覧料半額
※ 10月18日(日)は「市民の日」につき観覧無料
- 6 関連イベント 展覧会に関連して、講演会や映画上映会などを開催。
- 7 その他 本展のチラシ別添

「宮島達男 クロニクル 1995—2020」披露説明会 開催概要

日時 9月18日(金) 15:00から
場所 千葉市美術館 8階展示室
内容 展覧会や主な展示作品の見所について出品作家と担当学芸員からご説明いたします。

<本件に関するお問い合わせ先>

千葉市美術館 担当学芸員 森 啓輔
広報担当 磯野 愛
〒260-0013 中央区中央3-10-8
電話 043-221-2311
FAX 043-221-2316
E-Mail isono@ccma-net.jp